

<大震災発生時を想定した図書館シミュレーションプログラム:アクション>

アクション(1)		職員間安否確認
A1	事務室に勤務していた係長が負傷しました。頭部から流血していますが、裂傷は浅く、意識はしっかりしています。	応急措置
B1	事務室に勤務していた係長が負傷しました。意識はしっかりしていますが、右足を骨折したようで、動き回ることができません。	除到着席
A2	カウンターから見渡した限り、開架の書架が一列まるごと倒壊しています。倒れた書架の下には落下した本が床を埋めるような状態で散らばっています。	事務室との共有／初期対応検討
B2	カウンターから見渡した限り、開架の書架は倒壊していませんが、落下した本が80センチほどの高さに積み上がっています。	事務室との共有／初期対応検討
アクション(2)		
A1	1Fの閉架書庫内で書架の半数(地図上では下方、階段を下りて右側)が将棋倒しになっています。その先に進むことができない状態です。	
B1	1Fの閉架書庫内で書架の半数(地図上では上方、階段を下りて左側)が将棋倒しになっています。その先に進むことができない状態です。	
A2	カウンターに駆け寄ってきた学生が友人が2Fで書架に挟まれ、動けないと訴えています。	
B2	カウンターに駆け寄ってきた学生が2Fで落下し積み上がった本の山の中から助けを求める声がすると訴えています。	
A3	カウンターに駆け寄ってきた別の学生と一緒に図書館に来た友人が2Fで崩落した天井の下敷きになり、亡くなったようだ号泣しています。	
B3	カウンターに駆け寄ってきた別の学生と一緒に図書館に来て、2Fの隣の書架にいたはずの友人が見つからないと訴えています。	
アクション(3)		
A1	学生が友人が見当たらない。確か閉架書庫に本を取りに行くと言っていたと訴えています。	
B1	学生が友人が見当たらない。避難を始めるときまでは一緒にいたと訴えています。	
A2	さきほど友人が亡くなったようだと言ってきた学生がショックのあまり号泣しています。	
B2	さきほど落下して積み上がった本の山の中にまだ利用者が取り残されているはずだと強く訴えています。	
アクション(4)		
A1	多くの学生から家族と連絡をとるために館内の荷物の中にある携帯電話やスマートフォンを取り出したいという希望が寄せられています。	
B1	多くの学生からもう自宅に帰りたいという訴えが寄せられています。	
A2	引き続き、学生が友人が見当たらない。確か閉架書庫に本を取りに行くと言っていたと訴えています。	
B2	引き続き、学生が友人が見当たらない。避難を始めるときまでは一緒にいたと訴えています。	
A3	一次避難先で遭遇した元図書館長の教員がM2(中2F)にある貴重書コレクションの管理状況を尋ねてきました。	
B3	一次避難先で遭遇した元図書館長の教員がM2(中2F)にある貴重書コレクションの管理状況を尋ねてきました。	

